

放射線科この1年

放射線科技師長 前川 勝志

はじめに

平成17年4月1付けで、工藤宇一が係長、前川が技師長に昇格した。

堀 勇二医療技術部次長、千葉 裕主任を含め、放射線技師9名、助手2名で業務を行った。MRIは田村宏樹、RIは岩渕正俊、小野良博、CTは佐々木卓弥、血管造影は河野伸弘が担当した。

撮影件数

今年の前撮影件数は61,936件で昨年とほぼ同等となっている。前年比でみるとCTが3.4%、MRが4.4%、血管造影は32%とそれぞれ増えたが、一般撮影は-2.5%、RIが-10%の減少となった。CTが12,297件、MRが6,027件であり、共に一台の装置での撮影件数としては全道市立病院の中でもトップクラスである。4月にCT装置を全道に先駆けSIEMENS社製の4列検出器から64列検出器CTの導入をしたことが大きく影響している。これまでの装置と比べて検査時間が短縮できるため、検査のスループットが向上し撮影件数も伸びた。

また、64列検出器CTは、これまで検査対象外だった冠動脈の評価が可能になったことも大きな特徴の一つである。非侵襲的で撮影時間も10数秒で行えるため冠動脈バイパスグラフト術後、PCI後のフォロー等に利用しており、現在までに200例ほどの症例を経験している。

血管造影は16年に循環器内科医不在期間があったため大幅に減少したが、17年4月以降2名の循環器内科医師が固定したため撮影件数は15年当時の件数に近づきつつある。RIも同様に医師のマンパワー不足のため心臓の検査が減少し骨シンチ、Gaシンチ等がメインとなっている。

接 遇

今年は、ヒヤリハット、医療事故防止の観点から「放射線科接遇重点項目」を定め撮影業務を行った。

- * 患者さんへの挨拶
 - * 氏名の確認
 - * 撮影部位、内容の説明
 - * 「おだいじに」の一言
- これを放射線技師各自が実行することによりヒ

ヤリハットは減少した。このことは撮影、検査を行うに当たっての基本であり今後も行っていかねばならない。また確実に実行されているかどうか他部門からの評価も必要と思われる。

施設認定に向けて

厚生労働省が乳ガン検診についてこれまでの触診のみでなくマンモグラフィの併用を打ち出したこと、報道等の啓蒙で各施設でのマンモグラフィも増加している。それに伴ってマンモグラフィ検診精度管理中央委員会が行っている認定制度が注目されている。認定試験に合格することにより認定技師、医師となるが、希望者が多く受講、受験するものも抽選となり思うように受けられない現状にある。その上、合格率が70%程と国家試験より厳しい中で今年、河野技師が11月に認定技師となり西山診療部長も認定医師となった。

今後、毎年1~2名ほど認定技師をふやしていきたい。

認定施設は全道で13施設しかなくそのほとんどが検診センターであり市立病院ではまだ1施設もない。当院では認定に向けての準備を進めているところであり18年の早い時期に施設認定の申請を行いたい。

18年は

診療報酬の見直しがされ病院経営はさらに厳しさを増すと予想される。放射線科としては、収益を増やす為には撮影件数を増やすことであり、このことは各診療部の医師の協力が不可欠である。診療部とのコミュニケーションをはかり効率のよい撮影を行っていきたい。また、センター病院として近隣病院との画像転送や、今後のPACS、電子カルテ導入に備えるために画像のサーバ保管をする必要がある。

H17年1月~12月の撮影件数

モダリティ	一般撮影	造影、透視	ポータブル	骨密度	小 計
	33826	3747	4717	294	42584
モダリティ	C T	M R I	A G	R I	小 計
	12297	6027	482	548	19354
					合 計 61938